

全学共闘会議を結成

21日に記念館で大会開く

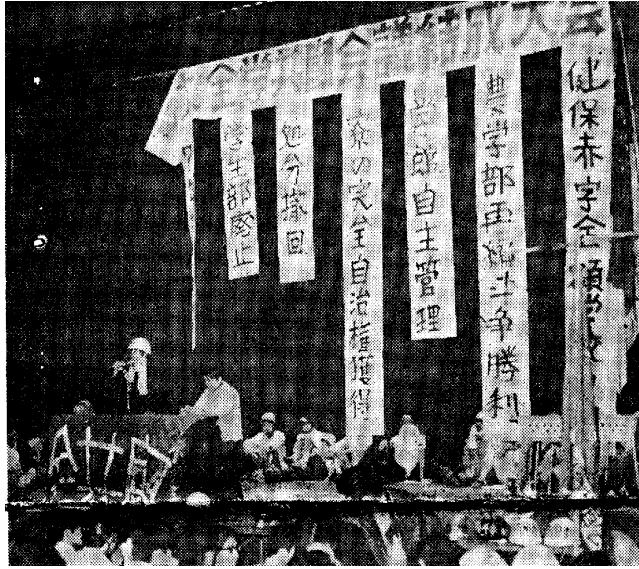
二十一日、十七日の学生大会で「全共」に委任される主体としての「全共」午後二時すぎから駿河台本校記念館で開かれた「全共」の行役を全面的に「全共」(全学共闘会議)結成大会が「全共」で行なわれた。

「七〇年安保粉砕」「中教審」「大学立法粉砕」をはじめ「六項目要求」を書いたタシ幕の下がる壇上をほとんど赤ヘル学生が占める中、集会は「自由討論」を繰り返していった。

この日は一三〇団体二五〇〇人が出席したが、外には日大全共闘約五〇〇人が文部省にむけてデモを行なうため、本学学生会館に結集したため、お茶の水界隈は機動隊五〇〇人が警戒にあたるという、緊張した雰囲気の中で行なわれた。

午後一時過ぎ、「全共闘」に結集した各闘争委員会名の発表が岡川敏雄学生会中執厚生部長の司会のもと発表され、続いて「全共闘」の意味づけとその必要性を「全共闘」準備会から説明がなされ、また各闘争委員会の代表が連帯の挨拶を行なった。その後東大全共闘、全中闘などの代表者挨拶の後インターを参加者全員で合唱し、生田工学部助手連続会議から挨拶があった。

この日の討論は全般的に内容、気迫とも今一歩不足しており、赤(社会学)、ピンク(文連)、黒



(反戦委)、白(中核)のヘルメットが会場に目立った。
午後五時すぎ結成大会は終了し約四〇〇人が本学前でデモを繰り返して、六時ごろから本館はじめ六・七・十・十一号館の出入口にバリケードを築き始めた。